

防 除 情 報

平成17年4月15日
長崎県病害虫防除所長

平成17年度病害虫発生予察 防除情報第3号

茶のクワシロカイガラムシの防除対策について

茶のクワシロカイガラムシが多発しています。下記の点に留意して防除指導の徹底をお願いします。

記

1. 発生状況
 - 1) 4月上旬の巡回調査の結果、発生株率は16.8% (6.7%)、発生圃場数は16筆中14筆だった。
2. 防除対策
 - 1) 本虫は年3回(5月中旬~下旬、7月下旬~8月上旬、9月中旬~下旬)に発生するが、そのうち5月のふ化直後の薬剤散布が最も防除効果が高い。
 - 2) 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤に対する抵抗性が強くなるので、下表のふ化盛期予測ピーク日を中心に散布する。なお、独自にピーク日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。
 - 3) 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化盛期予測ピーク日

地区名	東彼杵 赤木	東彼杵 太の原	世知原 板山	世知原 木浦原	五島 大津
平成17年	5 / 20	5 / 28	5 / 29	5 / 25	5 / 15
平成16年	5 / 12	5 / 22	5 / 23	5 / 17	5 / 7

注1：使用する気温データには、ながさき農林業情報システム 500m メッシュ気象データを利用した。

注2：平成17年は4月13日現在で予測し(1月1日~4月13日まで実測値)、14日以降のデータは平年値を利用した。

注3：同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

注4：ふ化盛期予測ピーク日まで期間があるので、5月中旬の予察情報でピーク日を再度確認する。

「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。